西村執行委員長挨拶【要旨】

◆第29回定期大会開催にあたり、熊本県を中心に日本各地で発生した7月豪雨、今なお収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々にお見舞い申し上げる。そして、医療従事者の方々をはじめ、社会を支えるために働く仲間の皆さん、さらに今も各職場において日夜ご精励いただいている組合員の皆さんに、心より敬意を表し、御礼と感謝を申し上げる。

◆本大会は新型コロナウイルス感染防止の観点から、検温、アルコール消毒、マスクの着用、手洗い・うがいを行っていただき、会場の換気に努め、傍聴を設けず開催することに、ご理解とご協力をお願いする。また、改めてご参集いただいた皆様に御礼を申し上げたい。

◆現在も、新型コロナウイルス感染症は、世界中で猛威を振るい、日本経済・社会への影響も計り知れず、企業倒産は400件を超え、7月31日時点で解雇や雇い止めが41,000名強となっている。こうした中、JR西日本グループも、鉄道・バス・物販・飲食・旅行業など、多くの分野で大打撃を受け、1月～3月の第4四半期決算では277億円、4月～6月の第1四半期決算は767億円の赤字となり、JR西日本グループ発足以来最大の経営危機に陥っている。この決算を受け、長谷川社長は、500億円程度の経費削減、採用計画を約900人から750人に縮小する考えを示した。

◆この緊急事態に私たちJR西労組は、組合員と家族、お客様の安全・健康を守ること、そしてグループを含め「雇用を守る」ことを第一義として、間接部門、一部の駅や乗務員区所において、「在宅勤務」を実施してきた。そして、お客様のご利用減に伴う駅の窓口一部閉鎖や列車の減便など、業務量の減少を鑑み、発足以来初の「一時帰休」を7月末まで実施した。

一方、JR連合は、極めて深刻な収入状況を踏まえ、国土交通副大臣に対して、①鉄道事業用資産の固定資産税等の減免②アフターコロナの社会に対応すべく、時差通勤・旅行時期の平準化を促進するためのポイント還元などに対する助成や弾力的な運賃・料金制度の運用③様々な対策を講じている鉄道をはじめとする公共交通機関の国を挙げての安全性PR、などの要請を行っているが、さらに国・行政として対処すべき政策課題等についても、引き続きJR連合とJR連合国会議員懇談会の取り組みを地方から下支えする。

◆今年度はJR、グループ各社とも、賃金や労働条件にも大きな影響が及ぶと想定されるが、雇用確保を最優先したうえで、短期的な緊急対応と、中長期的な対応とを区分けして真摯な労使協議に臨むことが重要と考える。

2020春闘では、厳しい中でも7年連続となるベア800円、年間臨給5・38ヵ月という大きな成果を収めた。ここで近視眼的に対応を誤れば、深刻な環境にある人手不足や離職増加がさらに加速し、JR産業の劣化につながる危険もある。厳しい時こそ将来を展望し、中央本部の下支えを行い、取り組みを進めていきたい。

なお、JR、グループ各社の共存共栄のためにも、まず鉄道、バス、グループ各社のホテルや飲食、商品を組合員の皆さんはもとより、ご家族・友人・知人に積極的に薦めて利用していただく取り組みを強く要請する。

◆また、こういう状況下であっても、「安全の確立」については、本年4月25日で15年が経過したJR福知山線列車事故を決して風化させることなく、特に半数弱を占める事故後入社の、事故を知らない世代に対する、事故の教訓化の取り組みが重要になる。そして、グループ、協力会社を含めた安全確立に全力をあげて取り組んでいただくことを要請する。

◆今回の新型コロナウイルス感染症で社会の様子が一変し、今後も社会の変化が進むとみなければならない。テレワーク、在宅勤務、時差出勤、Web会議など、ビジネスの形や生活様式の変化が加速し、通勤、出張、旅行、外出、買物、飲食など、JR産業に関わる様々な分野に影響が及ぶことは間違いない。社会の変化に向き合いながら、公共交通離れを食い止め、需要を喚起する対策を講じていかなければならない。JRをはじめ鉄道事業者は、「換気の励行」「マスク着用」等、感染症対策のガイドラインを公表している。これに加え、国をあげて不安を解消し安心な利用を呼び掛けるメッセージの発信や、事業者が講じる混雑緩和や感染リスク防止対策への助成などを求め、鉄道、公共交通の利用回復に取り組まなければならない。そのために交運労協と連携した幅広い取り組みも検討する必要があると考える。

◆ここで、日本自動車連盟のJAFMateという本に掲載されていた文章を紹介する。

『「わたしたちは再び会います」今年の4月、エリザベス女王は、ロックダウン中のイギリスの人々に向けて行ったスピーチの最後にこんな言葉を述べられ、人々も女王のスピーチに涙したそうである。これは第二次世界大戦中にイギリスで大流行したヴェラ・リンの歌をもじった文句である。しかし、考えてみればおかしな話である。なぜなら、わたしたちは緊急事態宣言中も親族や友人や同僚に会っていたはずであり、オンラインで話したり、会議したりして日常的に接触していたからだ。

ある人類学者は、他者への信頼は、視覚と聴覚だけでなく嗅覚や味覚や触覚とかの感覚も使って築くもので、ネットで話していることと実際に会うことはイコールではない。またある大学の総長は、人間は、視覚と聴覚を使って他者と会話すると、脳が「つながった」と錯覚するらしいが、それだけでは信頼関係までは担保できないという。なぜなら人は、五感のすべてを使って他者を信頼するようになる生き物だからだ。

そこで、鍵になるのが、嗅覚や味覚、触覚といった、本来「共有できない感覚」だという。他者の匂い、一緒に食べる食事の味、触れる肌の感覚が、他者との関係を築く上で重要なのだそうである。つまり、人間はまだ身体的なつながりのほうを信じているとも言えるが、そのうち脳のつながりだけで幸福を感じる人も出てくるかもしれない。オンラインの「つながり」は「会う」こととは違う。どんなにテクノロジーが発達しても、いまだに人を幸せにするのは、「会う」よろこびなのである。』と。

一日も早くコロナウイルス感染症が収束し、人々が自由に移動でき、オンラインの「つながり」から「会う」ことができる幸せな瞬間が戻ってくる日を願って止まない。

◆このような状況下でも117名が新規加入出来たことは、分会はじめ支部・部会・青年女性委員会皆さんのご協力のおかげであり、本当に感謝している。

なお、今年の新入社員は入社式や考動合宿がなく、自宅、寮などでWEB教育を受けてきた。そのため団体行動の機会が少ないことを考慮して、分会はこれからも世話役活動をお願いしたい。

◆新型コロナウイルス感染症拡大によって、世界的に排他主義、差別や偏見の拡大など、寛容さが薄れ、社会の分断が進んでいる。労働組合はお互いの立場を認め合う助け合いの組織である。難局を乗り超えるには、JR産業に働くすべての仲間が、労使をあげて一致団結して進むほかない。社会を支える私たちの大切な役割を着実に果たしていくために、JR西労組大阪地本は、力強く運動を進めていく決意である。皆さんの積極的な参画をお願いし、執行委員会を代表しての挨拶とする。

ともに頑張りましょう。

禅野書記長総括答弁

来年の本部大会は大阪が準備地本!

◆新型コロナウイルスが感染拡大をみせるなか、大会を開催できたことを嬉しく思う。また、社内にも感染者が増加傾向にあるため、先見の明を持って行動してほしい。

◆安全について、福知山線列車脱線事故から15年が経過した。安全の取り組みは確実に前進しており、アンケート結果にも表れている。しかしながら、あと一歩という部分もあるため、一つ一つ確実に進めていく必要がある。災害については、想定を大きく超える災害が発生している。高い感度を持って業務にあたってほしい。安全考動計画2022も折り返し地点となり道半ばとなっている事柄については今後とも取り組みを継続してほしい。

◆労働協約交渉がまもなく開始される。時限対策を恒久制度となるよう求めているので注目されたい。春闘については年間臨給としていることのありがたみが、今回、特に感じられた。労使の信頼関係があってこそできるものであることを改めて組合員にも伝えてほしい。

◆組織加入については、加入こそしたものの歓迎会ができない状態が続いている。レクや大会、日々の世話役活動を通じて、労働組合の活動を理解してもらうような取り組みを進めてほしい。また、分会大会の開催については、開催場所に考慮して開催してほしい。

最後に、来年の本部大会は大阪地本が準備地本となることが決定した。どのような形式での開催ができるのか、現時点では不明瞭ではあるが、大阪地本に集う組合員全員参加で盛り上げていきたい。

機関紙コンクール結果

今年は支部から4紙、青女から3紙、分会から19紙の応募があり、計26紙と昨年と比べ1紙少ない応募数となりました。文章構成・写真の使い方・内容の充実度のほか、発行頻度なども考慮して厳正に審査を行い、以下の表彰作品を決定しました。

一機関一機関紙の発行を目指して頑張りましょう!!

【支部の部】

最優秀賞	大阪支部	「Osaka Branch Monthly News ～これから～」
優秀賞	天王寺支部	「天王寺」

【支部青女の部】

優秀賞	大阪支部青女	「THE OSAKA TIMES」

【分会の部】

最優秀賞	尼崎列車区	「あまれ通信」
優秀賞	森ノ宮電車区	「みちのり」
優秀賞	京橋電車区	「橋電魂～SOUL～」
優秀賞	あべの車掌区	「あべの」
優秀賞	八尾運輸	「YAO VISION」

コロナ国内感染5万人超　コロナ対策「強い味方登場!」

年間掛金　4000円(1口)　8000円(2口)

感染したら給付金が出ます!

月額に換算すると1口で約333円の掛金です。これは安い!

新型コロナウイルスに不安を覚えている組合員のみなさんに

JR私傷病共済のお知らせです!

現在、新型コロナウイルスの国内感染者の増加ペースは加速傾向にある。もし私たちが新型コロナウイルスに感染したり、濃厚接触者に指定されてしまったら、勤務認証は病気・日障となり、**賃金の減額**（感染した場合は病気、賃金保証なし・濃厚接触者に指定された場合は日障、賃金は60/100となる。）となってしまう。

新型コロナウイルス感染の不安がありながら、公共交通機関としての使命を果たすために、エッシェンシャルワーカーとして働く組合員の皆さんに感謝と敬意を表するとともに、これに対し各個人で備えることが大切です。そこでJR西労組は、賃金が減少した際に給付金が支払われる共済をご用意しました！なおJR西労組**救援共済では新型コロナウイルスが給付対象となっておらず、給付金は支払われません！給付金がもらえるのは、JR私傷病共済です。**

●「JR私傷病共済　新型コロナウイルス感染者等」の取り扱い

勤務認証が日障で制限されている者について、コロナ罹患している（ないしはその可能性が高い）ため就業に就けない者であり、明らかに「傷病」を患っていることと、賃金控除されていることからJR私傷病共済第3条が適用され、私傷病共済の見舞金支給対象として取り扱うこととする。**感染した場合は、私傷病共済の対象ですが、年休使用の場合は対象外です。**

なお、見舞金については「三大疾病以外の自宅療養期間」の支給額（1口1,000円2口2,000円）となり、支給条件はこれまでと同様の扱いとなります。新規加入の用紙は各支部にあります！

※途中加入の場合、効力発生日（給付の開始）は会員となった日の翌々月1日からとなります。

その他にも、会員が**私傷病で欠勤**した時や**不妊治療**による休暇も対象になりました。**出産祝金**も支給されます。組合員相互の助け合いなので**非常に安い掛け金**で加入できます！詳しくは分会共済担当者・各支部（北大阪支部・大阪支部・天王寺支部・奈良支部）まで！